

最終公開審査対象応募案件改善アドバイス

2018年4月24日
COG2017 審査委員会

I. 総論

<ファイナリストチームへのメッセージ>

今回の最終公開審査案件では、市民／学生チームの地域課題解決の取組に対するコミットが高い評価につながりました。これら13案件の今後の課題は総じて、（１）アイデアの実現に向けての資金と人を含む体制的基礎の充実、学生主体チームについては実現に向けての持続可能な体制の構築が求められること、（２）COGでは社会的活動のアイデアを重要視しているが、アイデアの実現段階ではデジタル時代を踏まえて社会的活動のアイデアを支えるデータ活用アプリの有効な利用も資金的体制的なリソースの範囲で検討してみること、（３）アイデアの実現フェーズに移行するには（１）の体制問題に加えて、①デザイン思考によるアイデアの再検証、②実現可能性調査、③アプリに利用可能なデータの収集、などに気を配って着実に進めて欲しいと思います。

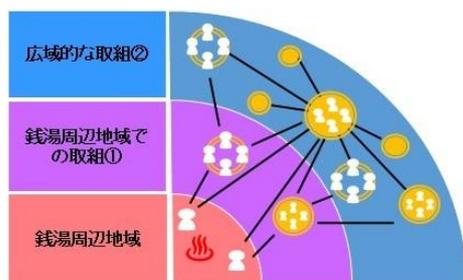
これから一年後、二年後にその進化のプロセス、実施のプロセスをご報告いただけることを心待ちにしております。「チャレンジ！！オープンガバナンス2017フェーズ2」として、実施に向けてのチャレンジです。アイデアが実り、地域の課題解決に貢献していかれることを願っております。

Re:FURO OSAKA プロジェクト

（応募チーム：Re:FURO OSAKA（大阪市）

（特徴）

地域コミュニティの希薄化が進んでいる今日、地域に根差した銭湯も減少の一途をたどっている。しかし、これに対して新たな光を当てて下図のように銭湯周辺地域から広域的な取り組みの拡大とともに日常と非日常の機能を拡大して新たなコミュニティの拠点として銭湯を見直そうというものである。試行の結果、多くの人が銭湯に興味を持っていながらも、単に銭湯の活性化が目的となるのではなく、多様な人たちが集まって新しい「人のネットワーク」ができていく予兆が感じられたところに特徴がある。



（アドバイス）

(1) 推進体制の充実と横展開

この提案は IT エンジニアと地域の住民などの混成部隊によるものであるが、実際に推進するにあたっての体制に一層の工夫を期待します。その際、銭湯周辺であれ広域であれ、地域の実際のニーズをよく把握してそれを土台に継続的な活動に展開できる責任体制と実施体制の構築が望まれます。

また複数の銭湯を舞台に活動が横に広がっていくことも有意義で、銭湯ごとに地域に根差した Re:FURO（地域名）プロジェクトの実施体制が構築されていくことを期待しています。そして、このプロジェクトの年次大会でも開催して、市民を交えた Re:FURO（地域名）プロジェクトの品評会もあり得るのではないかと思います。

(2) 新しい「人のネットワーク」の拠点としての銭湯の役割と活動内容

活動内容はマッピングパーティ、いきいき百歳体操、子ども食堂など子供から高齢者まで幅広いですが、集会場以上のどのような機能を銭湯に求めるのか、それぞれの活動のアイデアと地域に即した新しい「人のネットワーク」の拠点としての役割の明確化が望まれます。その際に、試行の経験から「楽しみながら」というのが一つのキーワードになるかも知れません。さらに、実際に多くの人に参加してもらうには持続的で現実的なインセンティブについての具体的な検討があるとさらによいでしょう。

(3) 行政への連携の期待

このプロジェクトによる成果である「人のネットワーク」を活かし、新しいコミュニティを育むことをサポートするという視点で大阪市各関係部署でも取り組んでいただけたらと思います。とりわけ地域に身近な区役所については具体的に活動を考えている地域の銭湯および Re:FURO（地域名）プロジェクト推進チームとの定期会合による共通の課題の洗い出しと役割分担による実施や支援も期待したいところです。